

海外生活 エッセー

シンガポール事務所

知れば便利なシンガポールの chope 文化

(一財)自治体国際化協会シンガポール事務所 所長補佐 瀬戸口 泰彦 (鹿児島県鹿児島市派遣)

→ chope とは

シンガポールの物価は日本より高いと感じることが多いのですが、外食を安くすませたい時の強い味方がホーカーセンター（屋台街）です。ホーカーは飲食物进行る屋台と、テーブルとイスが置いてある共用の飲食スペースに分かれており、日本のショッピングモールなどにあるフードコートによく似ています。

実際にホーカーに出かけてみると、特に混雑した時間帯にはテーブルがポケットティッシュや折り畳み傘、時にはビルの入館用 IC カードなどで場所取りされていることがあります。この場所取りのことをシンガポールでは「chope」という単語で表します。まずは chope して座席の心配を払拭した後に、好きな屋台の列に並ぶことがホーカーでは広く受け入れられており、料理の載ったお盆を持ちながら人混みで右往左往するリスクを考慮すると、個人的には合理的なシステムだと感じています。



ホーカーのテーブル
(ポケットティッシュや IC カードで chope されている)

→ chope 以外のオペレーション

このように、昔ながらのホーカーでは chope した後、列に並んで対面で注文、現金で支払い、その場で料理を受け取るという一連の流れがおおむねどこでも当てはまります。しかし、それ以外のショッピングモールのフードコートやカウンター注文式の飲食店では、一見ただけではオペレーションが不明な店も多く、初めて行く店では周りをよく観察する必要があります。

これを着席、注文（支払）、配膳の3つの場面において見てみましょう。まず、着席についてはスタッフの案内を待つか、自分で席を選ぶかが問題となります。

次に注文については、席にスタッフが注文を取りに来る、席に貼ってあるメニューの二次元コードをスマホで読み取って注文、カウンターに出向いて注文、セルフオーダー端末から注文、といったパターンがあり、さらに複数の注文方法を受け付けていることもあります。支払も注文時に行う店と飲食後に行う店があります。

配膳は大きく分けると、スタッフが配膳するか自分で受け取るかの2通りですが、自分で受け取る場合は単に専用の列に並ぶ、番号札を渡されてその番号が呼ばれるまたは表示されるのを待つ、呼び出しベルを受け取って鳴るのを待つ、といったバリエーションがあります。

このように店ごとにさまざまな場合があり、なかなか油断がならないのですが、分からないからと言って入店をためらうのはもったいないと言えます。シンガポールには、いわゆる高級店ではなくとも国際的に高い評価を受ける有名店が数多くあり、地元の人しか知らない名店も多くあります。また、多民族国家であるだけに事情をよく知らない客を受け入れる懐の深さもあります。シンガポールにお越しの際は、食欲と好奇心の赴くままに気になる店に飛び込んでみることをお勧めします。